

**Bolat Yerzhan** さん（2013年9月～2014年8月に留学）

筑波大学では人文・文化学群に所属しました。ただそこで開設されている科目だけでなく、色々な科目を受講しました。先生たちのスキルは大変高く、大いに勉強になりました。特に **Harald Kleinschmidt** 先生の「国際関係史」という英語の授業は非常に面白かったです。また英語の授業では、学生たちとたくさん練習をしました。それで英語のレベルがどんどん上がっていくのを実感しました。大学卒業以来、国際弁護の会社で働いています。職場ではいつも英語を使っています。英語と国際関係史の授業は今でも大いに役立っています。可能であれば **Kleinschmidt** 先生にまた会いたいと思っています。

カザフ国立大学を卒業後、アメリカ系弁護士会社に就職しました。そこで約2年オフィスマネージャとして働きました。その2年間で仕事のいろはを学びました。2017年5月からはロシア系の会社で弁護士として働いています。今は基本的に契約とライセンスに関わる仕事をやっています。契約書、請願書、申込書を作ったりしています。最初は、どうやって仕事を進めればよいのか分からなかったのですが、今は徐々に仕事に慣れてきました。

大学生の頃から日本の会社で働きたいという夢をもっていました。まだその夢は実現できていませんが、日本で働くという夢を今でも持ち続けています。日々、弁護士としての能力を磨き、将来、弁護士として日本の会社で活躍できるようになりたいです。空きの時間には、自分で日本の法律と民法を学んでいます。50歳になれば、日本の法律研究者としても知られるようになればと思っています。



※一番左が **Bolat Yerzhan** さん

Andarbaeva Medeya さん (2015年9月～2016年8月に留学)

筑波大学では日本語の読解・聴解の授業だけでなく、自身の日本語学習になるべく役立つ科目を選択しました。筑波大学での留学を終えた3ヶ月後に、母校であるカザフ国際関係外国語大学大学院を卒業しました。卒業後、たまたま母校で日本語教師の募集があり、それに応募しました。晴れて採用となり、現在は母校で日本語を教えています。筑波大学での授業体験を思い出しながら、自身の授業をどうやって運営すればよいのか、またどういう教材を使えばよいのかといったことを考えています。学生達には日本・日本語に関心を持ってもらえるよう日々工夫をしています。学生、後輩には伝えたいこと、教えたいことが山のようにあります。

日本語を上達させるためには、本物の日本語を聞くことが大事です。カザフ国際関係外国語大学の学生達は残念ながら日本に留学する機会がほとんどありません。学生達には全員日本に留学してもらえるような機会を作りたいと思っています。



※Andarbaeva Medeya さん